

自然の恵み

第①位



春の恵み (蕨の薺)
雪の間から取ってきたものを天ぷらに。待ちわびた春が口の中に広がる。



夏の恵み (スモーク)
捕った魚を自家製のスモークに。香ばしい香りにみんな笑顔になる。



秋の恵み (キノコ)
採るのが楽しく、食べるのがまた楽しい。つまり「二度楽しい」!



収穫の喜び
作物も良くできるととてもうれしい。自然の力に感謝。まずはろうはずもない。



竹細工
自然の素材を使って作る。できあがると愛着が湧き手放せなくなる。

楽しさこそ活力の源

早春、冷え込んだ朝、しみわたりに(+)をきいて見つけた蕨の薺の色と香。夏、川遊びをしながらつかまえた魚の感触。秋、山に行って採ってきたキノコや栗の味。冬、自分たちの足で一歩一歩踏み固めて作った「ゲレンデ」。一番初めに滑った時の気持ちよさ。こんなことが、今でも楽しかった思い出としてありありとよみがえってくる。振り返ると、子供のころのこんな体験が、私の毎日の活力の源となっているように思う。

良い作物を収穫したい。それは土作りからだという。どうしてもよい土ができるのだろうか。キャベツの葉っぱを食べる青虫には非常に困っている。だけど農薬は使いたくないので、手でつぶすしかないか。せっかくなのでメロンやスイカをカラスや狸などに食べさせてたまるか。時間はかかるが網をはることにしようか。などなど、どれも能率が悪い。しかしそんなに苦痛ではないのが不思議だ。むしろ、ハトやカラス、イタチや狸などと知恵比べを楽しんでいる。そして彼らに一矢報いたとき、私は心の中で「どーだー!」と勝利の雄叫びをあげる。野良仕事も含めて、自然の中で体を動かしていると、身の回りは知らず知らずのうちに「遊びの広場」となってくる。

(+)滑って硬くなった雪の上を歩く遊び



エピソード



都会での生活の中で一番持ち直しかったのは、5月の連休だった。春休みが終わり4月に入ると、事あるごとに「今頃あそこ山に行けばちょうど食べごろのウドが出ているんだがな」などと、姿が浮かんでくる。放課後、仕事を終えた後そんなことを自慢していたら、だれもが行ってみたいですよ、と言う。そこで「松之山山菜パーティ」なるものを企画し親しい友人たちを誘った。子供の頃よく探りにいった山に案内し、そこで採れた山菜を天ぷらにして、雪で冷やした飲み物とともに頂くというものだ。

すこぶる評判が良く、始めてから十年以上続いている。また天候に恵まれて、中止したのは一回しかない。実に楽しいひと時を過ごしている。

得意な分野

山菜、キノコ、川遊び、伝統工芸(特に竹細工)

支援内容

1. 山遊び(大空の下、オカリナ演奏などでもできます)
2. 川遊び
3. 竹細工(壁掛けなど小物作り)
4. 山菜とり
5. 自然を使った遊び

松之山は、何より楽しい

遊びの広場だ

名前

ほさか きよし
保坂 清

- 1946年 旧松之山村松口(現十日町市松之山松口)に生まれる。
- 1961年 新潟県立松代高等学校卒業。このころヒットした映画音楽「禁じられた遊び」を弾きたくて、楽譜を見ながらギターの独習を始める。
- 1969年 武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。
- 1971年 東京都地方公務員(中学校音楽教諭)として採用される。
- 2003年 故郷にUターンし、畑を耕し稲を作り始める。減農薬、無農薬を理想に試行錯誤しているが、田んぼは雑草だらけ、青虫にキャベツを食われ、ハトに大豆、小豆を引きぬかれるなど、悪戦苦闘中。

プロ
フィール